

第10課 信じえないことを行う

【暗唱聖句】

「彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。」イザヤ 53:5

【日曜日・試験真理】

イザヤ 50:4 「主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え／疲れた人を励ますように／言葉を呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし／弟子として聞き従うようにしてくださる」

主はイザヤに弟子として、疲れた人を励ますための舌（言葉）を与えられました。イエス様は、「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。」(マタイ 11:28)とされましたが、同じ使命がイザヤに与えられたということです。その務めを果たすために、主は「朝ごとに、呼びさまし」ます。「朝ごとに」は、原文では二回繰り返されており、それは強調を表現するヘブル語の修辞法で、「朝ごとに、毎朝、来る日も来る日も」というニュアンスになります。また、「呼びさます」も2回繰り返されていますが、2回目は「聞き従う」と訳されています。つまり、主が私たちが呼び覚まされるとは、主の声に聞き従うということなのです。

イザヤ 50:5 「主なる神はわたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退かなかった」

耳を開かれたとは、「聞き従う」と同じであり、4節の言葉が繰り返されています。それに対して、「わたしは逆らわず、退かなかった」と続きます。預言者とは、主の声に聞き従い、主の言葉を語ることによって、疲れた人たちを励ます働きが委ねられているのです。

イザヤ 50:6 「打とうとする者には背中をまかせ／ひげを抜こうとする者には頬をまかせた。顔を隠さずに、嘲りと唾を受けた」

ここには自発的に自ら進んで忍耐をもって苦難を受けるしもべの姿があります。それはイエス様も同じでした。「髭を抜かれる」とは屈辱と侮辱を意味します。

イザヤ 50:7 「主なる神が助けてくださるから／わたしはそれを嘲りとは思わない。わたしは顔を硬い石のようにする。わたしは知っている／わたしが辱められることはない、と。」

主が助けて下さると、どれほどあなどられてもあなどりと思わなくなり、どんなに辱めを受けたとしても、辱めとは思わなくなります。イザヤはそれを知っていると言います。

イザヤ 50:8、9 「わたしの正しさを認める方は近くいます…わたしに向かって来るがよい。見よ、主なる神が助けてくださる」

イザヤは勝利を確信しています。

【月曜日・苦難の僕の詩】

イザヤ 52:13 見よ、わたしの僕は栄える。はるかに高く上げられ、あがめられる。52:14 かつて多くの人をおののかせたあなたの姿のように／彼の姿は損なわれ、人とは見えず／もはや人の子の面影はない。52:15 それほどに、彼は多くの民を驚かせる。彼を見て、王たちも口を閉ざす。だれも物語らなかつたことを見／一度も聞かされなかつたことを悟ったからだ。

イザヤ 52:13～15は、53章の序章となっています。つまりイエス様の生涯について簡潔に描かれています。「見

よ。わたしの僕は栄える」とは、「主の僕」が与えられた任務を果たして成功するという意味です。それゆえ彼は高く上げられます。主の僕とはイエス様のことであり、高く上げるのは父なる神様です。ところが、その高く上げられた方の姿は損なわれ、人の子の面影もないと言います。「かつて多くの人をおののかせたあなたの姿のように」と訳されている箇所は過去形ではなく、預言的完了形なので、「多くの人があなたを見て驚くほどに、彼の姿は損なわれ…」と訳すと良いでしょう。そのような主の僕受難は、王たちも言葉を失うほどの、さらなる「驚き」を与えると預言されています。

ところで、フィリピ 2:6~11 でも、同じことが書かれていますが、イエス様の受難が先にきて、それゆえ神様がイエス様を高く上げられ、人々があがめるといふ順番になっています。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿でへりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです」フィリピ 2:6~11

時系列から言えば、この順番が正しいのですが、イザヤは勝利を先に預言しています。

【火曜日・誰が信じえようか】

「わたしたちの聞いたことを、誰が信じえようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあるか」イザヤ 53:1

茨の冠をかぶらせられ、鞭うたれて、全人類の罪を背負って十字架で死なれたキリストの姿は、人のあるべき姿とは思えないほどでした。しかし、それはすべて人類の罪を赦し、贖い、永遠の命を与えるためでした。そのことに対して、イザヤ 53:1 で「誰が信じ得ようか」と疑問形で問いかけることで、それは本当に信じがたいことだったと強調しています。

ヨハネは、多くのしるしを人々の目の前で行われたが、人々はイエス様を信じなかったことから、このイザヤ書の言葉を引用して、「預言者イザヤの言葉が実現するためであった。彼はこう言っている。「主よ、だれがわたしたちの知らせを信じましたか。主の御腕は、だれに示されましたか」(ヨハネ 12:38)と語っています。驚くべき「主の御腕が示され」ても、すべての人が信じるわけではないのは、今も同様です。

【水曜日・罪に沈む者たち】

「乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように／この人は主の前に育った。見るべき面影はなく／輝かしい風格も、好ましい容姿もない。」イザヤ 53:2

イエス様は、人々の目には「砂漠の地から出る根」のように見えました。これは決して目立つことのない姿として育つことを意味しています。旧約聖書で「新芽」や「若枝」という言葉はメシアを意味する表現としてしばしば使われています。ちなみに、イエス様は「ナザレ」という貧しい村で育ちましたが、ナザレは「新芽」を意味するヘブル語の「ネーツェル」から来ています。マタイの福音書 2 章 23 節に「これは預言者たちを通して『この方はナザレ人と呼ばれる』と言われた事が成就するためであった。」と書かれていますが、そのように実際に預言されている箇所を旧約聖書で見つけることはできません。これは、「新芽」がナザレを現わしていることから来ているのです。しかし、当時のユダヤ人の社会では「ガリラヤ」の出身というだけでも軽蔑の眼差しでした。ましてやその中の「ナザレ」に対するイメージはなおさら酷いものでした。田舎の代名詞のようなところで育ったのです。しかし、イエス様はきらびやかな世界ではなく、「神様の御前で育った」のです。

イエス様の映画や絵画では、ハンサムな顔立ちをしています。実際には、「見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もなかったようです」。私たちのイメージを少し変えなければならないのかもしれないかもしれません。

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。」 53:4

イエス様は苦難の生涯を歩まれました。それは私たちの病や痛み、つまりそれらを来たられた罪を負ったためでした。人々は、イエス様が苦難の道を歩むのは、何か悪いことをしているから神に罰せられたのだろうと思います。しかし、それはイエス様自ら選んだことでした。これが重要なポイントです。イエス様ご自身次のように言っておられます。

「わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる」 ヨハネ 10:17
わたしたちは、イエス様が私たちが救うためにどれほど苦しまれたのかを見なければなりません。

【木曜日・償いの捧げ物】

「病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ／彼は自らを償いの献げ物とした。」 イザヤ 53:10

「償いの捧げ物」とは、他人に対する故意の過ちを償うための「賠償の供え物」を意味しています。罪を犯した人は、神様から赦しを受けるためには、まず奪ったものを相手に返し、さらに賠償金を支払わなければなりません。神様に対して犯した罪であれば、神様に対して賠償しなければなりません。このような罪が意識されています。イザヤ 40:2 で「エルサレムの心に語りかけ／彼女に呼びかけよ／苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、と。罪のすべてに倍する報いを／主の御手から受けた、と」とありますが、イエス様は自らの命を持って、罪、咎の賠償を支払ったのです。そして、自らが犠牲の捧げ物となったのです。

詩篇の記者は、このキリストの贖いについて次のように歌っています。

「いかに幸いなことでしょうか／背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。いかに幸いなことでしょうか／主に咎を数えられず、心に欺きのない人は」 詩篇 32 : 1, 2

イエス様が自らを償いの捧げ物として下されたことによって私たちの罪が赦されたことを、何と幸いなことでしょうかと歌っています。またパウロは、ローマ 5:8 で、

「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」

と、イエス様が自らを償いの捧げ物として下されたことによって神様の愛を知ったと言いました。